

三「俺さ芸人じゃなかったら学校の先生やってみたいんだよね」

坂「確かに、お前現国の先生の集合体みたいやもんね」

三「でしょ。で先生の中でも荒れたクラスの生徒を更生させる教師やるから」

坂「あんな大変よ出来る？」

三「任してよ。不安な思いさせてごめんね」

坂「俺のこと彼女やと思ってる？」

三「みんなおはよう!…おはよう!…おはよう!」

坂「めっちゃ無視されてるやんこいつ」

三「おはよう。皆さんが挨拶を返してくれるまで10分かかりました」

坂「粘ったねえ〜」

三「出席取るぞ〜!鬼塚、剛力丸、鰐鮫虎」

坂「鰐鮫虎!?いかついキメラおるな」

三「今日は授業の前に話さなきゃいけないことがある。鬼塚、お前煙草吸ってるそうじゃないか」

坂「良くないね」

三「若い頃悪ぶりたい気持ちは分かる。先生だって若い頃は葉っぱが付いた木の枝とか加えてた」

坂「イキり方ダサ。アニポケのキモリみたいになってるやん」

三「お前は反省文だ。放課後までに職員室に持ってこい」

坂「結構先生さまになってるね」

三「次に鰐鮫虎お前パパ活してるらしいな!」

坂「鰐鮫虎女の子やったん!?!」

三「お前なパパ活した分はちゃんと確定申告してるのか!」

坂「絶対そこじゃないよ」

三「先生は納税してないやつは見下すことにしてるからな」

坂「嫌な思想」

三「なに?扶養のなかでやってるから大丈夫、だと」

坂「どこちゃんとしてんねん!」

三「ってことは結構安いよな」

坂「先生!!変なこと考えんなよ!」

三「お前も反省文だ。個人 Line でくれ」

坂「おい連絡先知ろうとしてるやろ」

三「(横を見る) 校長先生どうしました?はっ別に変なことは考えてませんよ!!」

坂「嘘つけめちやくちやうろたえてるやん」

三「えっ?加藤が他校の生徒で喧嘩?」

坂「喧嘩?」

三「先生今から止めてくる!」

坂「生徒の喧嘩止めに行くのね、急いで」

三「ここか、ふっ (扉を持ち上げる)」

坂「サスケの第2ステージみたいな扉やん。どこで喧嘩してんねん」

三「加藤、大丈夫か!？」（駆け寄る）

坂「大丈夫？」

三「意識はあるな、加藤、加藤、加藤~!!」

坂「それ死んだときのテンションやねん。意識あるんやろ」

三「お前らがやったのか?5対1とは卑怯なマネするじゃねーか」

坂「相手5人もおんのか」

三「俺か?人に名前を尋ねるときはまず自分からだろ。ちょ聞き取れない」

坂「5人分やもんね。相手律儀やな」

三「俺か、俺はこいつの担任だ!いいか、俺には守るべきものがある」

坂「お、バシッと決めてくれよ」

三「法律だ」

坂「生徒ちゃうんかい!なんで今お前の守るべきものの発表したんや」

三「ちょっと待て。(スマホ見る) パパ活してごめんなさい」

坂「鰐鮫虎から反省文届いた」

三「なにしたら許してもらえますか?(口笛)」

坂「今お前法律スレスレやで」

三(殴られる)

坂「ほらあ、集中せえよ」

三「くそ、加藤こうなったのもお前のせいだ」

坂「教師がいっちゃん言ったらあかんねん」

三「反省文だ。俺の血で書け」

坂「ダイイングメッセージみたいになるぞ」

坂「全然教師できてないやん」

三「じゃあ次は幼稚園の先生やるわ」